



東広島ゆかりの刀鍛冶に大山住宗重と銘する刀工がいます。大山鍛冶は、建武年間頃（14世紀中頃）に筑前の左一派が大山（東広島市八本松町・広島市安芸区瀬野）に來住したといわれる、中世の芸州の刀工です。宗重は大山において室町時代中期から末期にかけて活躍し、数代続きましたが現存する刀剣の数はわずかに限られています。本展は、所在が確認された宗重の刀剣15振を一堂に展覧する初の機会となります。

また、鎌倉時代から江戸時代までの広島ゆかりの刀工による刀剣並びに、県内で活躍する現代刀匠の作品や、全国的に知られる景光、虎徹、助廣などの名工たちによる優れた刀剣のほか、つばをはじめとする刀装具などをあわせて紹介し、日本刀の繊細で力強く、華やかな美の世界に迫ります。

東広島市立美術館（広報担当：桑原 学芸担当：大山）

【お問合せ】東広島市立美術館

〒739-0015 広島県東広島市西条栄町9番1号

TEL :082-430-7117 FAX :082-430-7118

E-MAIL:2636026@izumi-techno.jp WEB:https://hhmoa.jp/



東広島市立美術館
HIGASHIHIROSHIMA CITY MUSEUM OF ART

■ 開催概要

展覧会名 | 東広島市制施行50周年記念 日本刀の美 ―大山住宗重と広島ゆかりの刀剣

会 期 | 2024年10月15日（火）～12月1日（日）

時 間 | 9：00～17：00（入館は閉館30分前まで）

ただし、10月15日（火曜日）は10：00開館、10月19日（土曜日）、11月23日（土曜日・祝日）は19：00まで開館

休 館 日 | 月曜日（祝休日の場合は翌平日）

会 場 | 東広島市立美術館3階展示室

主 催 | 東広島市立美術館、中国新聞社

後 援 | NHK広島放送局、中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、（株）広島リビング新聞社、プレスネット、KAMONケーブル、FM東広島89.7MHz、尾道エフエム放送

観 覧 料 | 前売券 一般 800 円、大学生560円*

当日券 一般 1,000 円、大学生700 円*、高校生以下無料

※当日券に限り20名以上の団体2割引

*学生証をご提示ください／後期高齢者医療被保険者証・身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方は、無料でご観覧いただけます。

ウィズこどもデー | 一般800円、大学生560円*

会期中の毎週土曜日、高校生以下のこどもを同伴する保護者（2名まで）は当日料金より2割引になります。

*学生証をご提示ください

他の割引と併用不可／後期高齢者医療被保険者証・身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方は、無料でご観覧いただけます。

■ 展示構成

第1章 「大山鍛冶と大山住宗重」

大山（東広島市八本松町宗吉・広島市安芸区上瀬野町）は古代山陽道の一部でした。「大山鍛冶屋敷跡」は大山峠からやや西へ下った位置にあります。14世紀前半の建武年間頃、初代守安（筑前・安行の弟とされる）が移住し、その後大山鍛冶は数代にわたり続きます。本章では応永・康正年間頃に現れた宗重の所在が確認された15振を特集します。



広島県重要文化財 刀 銘 藝州大山住宗重作 永禄十一年八月吉日 安土桃山時代 個人蔵

第2章 「安芸の刀工」

安芸国は芸州とも称され、現在の広島の西部地域にあたります。中世、刀剣の主要産地であった備前・備中・備後の影響はほぼ受けず、筑前（福岡）、周防（山口）の刀工が移住、往来していることが特徴です。江戸時代、広島城下に移住した刀工も多く、その中でも優れた作を残した輝廣をはじめ、石橋正光や松尾秀任ら幕末期の刀工までご紹介します。



脇指 銘 肥後守藤原輝廣 安土桃山時代 個人蔵

第3章 「備後の刀工」

同じ広島県内においても、備後の刀工集団と安芸の刀工集団では流れが異なります。奈良時代に国分寺がおかれた備後では、備前と大和の影響を受けた作風が認められます。鎌倉末期から南北朝期に活躍した備前一文字派の流れを汲む助国派や、室町時代初期に登場する法華一乗派など備後の刀工をご紹介します。

また、Topic「刀装具の美」として安芸と備後の^{つば}鐔をはじめ、小柄・筭・目貫・縁頭など各工匠の工芸の技が一体となって生み出される刀装具をあわせて展示します。



広島県重要文化財 太刀 銘 助国 鎌倉時代末期 個人蔵



俱利伽羅龍図三所物 筭 十代後藤藤乗
江戸時代前期 個人蔵

第4章 「全国の刀工—制作年代・地域と作風」

日本刀は制作年代ごとに、その社会的背景や道具としての位置づけなどによって、古刀・新刀・新々刀の3つの時代区分に分かれています。本章では平安末期から区分される古刀から江戸時代中期以降に分類される新々刀まで、日本各地で製作された刀剣を展覧。虎徹、助廣など有名刀工の優れた刀剣のほか、Topic「現代刀匠の技と美—広島現代刀匠」として広島県内を拠点に活躍する現代刀匠4名をご紹介します。



刀 銘 住東叡山忍岡辺 長曾祢興里作
延宝二年六月吉祥日 江戸時代前期 刀剣博物館蔵



短刀 銘 安藝国三上貞直彫同作
平成二十六年三月吉祥日 個人蔵

■ 同時開催 コレクション展第Ⅲ期

本展では、同時開催の特別展「東広島市制施行50周年記念 日本刀の美—大山住宗重と広島ゆかりの刀剣」にちなみ、当館コレクションの中から「きらめき」というテーマをもとに、広島にゆかりのある作家が手掛けた工芸や彫刻の立体作品を中心に展覧します。

ゼロ・ヒガシダ《阿字鶴》のように金属を素材とした作品や、瀬戸内海の光を感じる情景を表現した作品など約20点を展示。



ゼロ・ヒガシダ《阿字鶴》2021 (仁和寺会場)

会 期 | 2024年10月15日(火)～12月27日(金)

会 場 | 東広島市立美術館2階展示室

観覧料 | 一般300円、大学生200円、高校生以下無料

関連イベント ギター・マンドリンコンサート

マンドリンとギターによる演奏会です。展覧会にちなんだ楽曲をお届けします。

11月10日(日) 14:00～14:30

会 場 | 1階ロビースペース(参加無料・申込不要)

演 奏 | 広島大学ギター・マンドリンクラブ

■ 日本刀の美展 関連イベント

1 ギャラリートーク

1回目と2回目は本展企画協力団体である広島県美術刀剣保存協会を講師に、大山住宗重、安芸の刀剣、備後の刀剣、全国の刀剣について、開催日ごとにテーマを変えながら本展出品作品について詳しく解説いただきます。3回目には本展出品者である三上貞直氏に現代刀匠の展示を中心に、刀剣の制作過程を交えながらお話しいたします。

日 時 ①10月15日(火) 11:00~12:00 1章「大山鍛冶と大山住宗重」、2章「安芸の刀工」／広島県美術刀剣保存協会
②10月19日(土) 14:00~15:00 3章「備後の刀工」、4章「全国の刀工」／広島県美術刀剣保存協会
③11月2日(土) 11:00~12:00 三上貞直(広島県無形文化財「日本刀製作技術」保持者)

会 場 3階展示室

三上貞直(広島県無形文化財「日本刀製作技術」保持者)

1955年島根県邑智郡瑞穂町(現邑南町)生まれ。1974年重要無形文化財保持者(人間国宝)の月山がっさん貞一さだかずに入門。1980年文化庁より作刀認証を受け、広島県山県郡北広島町に三上貞直日本刀鍛錬道場を設立した。1987年日刀保たたら特別村下養成員となる。1981年以降、新作名刀展の高松宮賞、文化庁長官賞をはじめ数々の受賞を重ねる。2006年広島県無形文化財保持者認定、広島県刀職会会長に就任。2013年から2019年8月まで全日本刀匠会会長を務めた。



三上貞直 撮影：トム岸田

2 銘切り実演

刀のなかご茎部分に刀匠名や制作年などを刻む「銘切」。真鍮板にご希望の名前等文字を現代刀匠に彫っていただく銘切り実演を行います。完成した銘板はお持ち帰りいただけます(※整理券及び参加費が必要です)。

11月2日(土) 13:30~17:00 ※無くなり次第終了

会 場 1F アートスペース

講 師 三上貞直ほか

定 員 50名(当日先着順)※10時より当館1階にて整理券を配布

参加費 2,000円(銘板1枚/1人につき)



参考画像

3 現代刀匠によるペーパーナイフづくりワークショップ

スイス出身で現在は広島県内で活動をしている現代刀匠・ジョハン・ロイトヴィラー氏を講師に、鉄を熱して叩き、仕上げの工程までを体験いただくペーパーナイフ作りを行います。

11月9日(土) [1回目]10:00~11:30 [2回目]13:00~14:30 [3回目]15:00~16:30

会 場 1階アートスペース、美術館北側入口

講 師 ジョハン・ロイトヴィラー(刀匠名光綱/現代刀匠)

定 員 各回4名(要申込)※1組2名まで申込可

参加費 1,500円

対 象 高校生以上

締 切 10月26日(土) 必着

ジョハン・ロイトヴィラー(刀匠名光綱/現代刀匠)

1989年スイス・バレー州モンテ生まれ。14歳で義務教育を終え、その年に鉄工所で見習いを始める。技術を極める事を模索する中で日本刀に出会う。少しでも日本に携わる事として、居合道、剣術、書道を始める。18歳から独学で日本語を勉強し始め、23歳で初来日。その時に自分の居るべき場所は日本だと確信し、2017年に移住。2019年3月久保善博刀匠(広島県無形文化財「日本刀製作技術」保持者)に入門。5年間の修行を経て、2023年文化庁主催の「美術刀剣刀匠技術保存研修会」を修了。2024年3月に作刀許可を取得し、独立。現在は広島県北の国営備北丘陵公園の工房にて作刀に励みながら三原市にて工房「仕上げ場」の建設を進めている。



4 刀剣鑑賞の初心者入門教室

広島県美術刀剣保存協会が講師となり、模擬刀を用いながら、刀剣の扱い方や鑑賞の仕方についてレクチャーを行います。刀剣の見どころポイントについて知っていただける機会です。初心者の方でもお気軽にご参加ください。

11月30日(土曜日) [1回目]10:00～12:00 [2回目]14:00～16:00

会場 1階アートスペース

講師 広島県美術刀剣保存協会ほか

定員 各回20名(要申込、参加無料)※1組2名まで申込可

対象 小学生以上(小学生は保護者同伴)

締切 2024年11月16日(土) 必着



広島県重要文化財 刀銘 藝州大山住宗重作 永禄十一年八月吉日 安土桃山時代 個人蔵

5 ときし 研師実演会

刀匠が鍛えた刀を研師が磨き上げることで地金や刃文が際立ち、美しい眺めがあらわれます。東広島在住の研師・奥田芳孝氏を講師に、刀剣の研ぎの実演を行っていただきます。実施時間中はご自由にご覧いただけますので、ぜひ展覧会とあわせてお立ち寄りください。

日時 11月24日(日) 10:00～12:00、13:00～15:00

講師 奥田芳孝(研師/広島県刀職会会員)

会場 1階ロビースペース(申込不要)

奥田芳孝(研師/広島県刀職会会員)

1959年生まれ。1974年中学卒業後、父のもとで研磨修業を始め、同年大阪天下茶屋の研師・真津仁人に師事する。1981年父没後、広島市南区皆実町で「奥田刀剣店」を引き継ぐ。1991年向洋町に「アート巧」を開店。2006年広島市東区福田にて研磨に専任する。2023年東広島市八本松町に移住、現在に至る。日本刀剣保存協会主催 研磨コンクールで入選3回。



参考画像

6 西条酒蔵ガイド × 日本刀の美展

夜間開館日に西条酒蔵通りをガイドしたあと、日本刀の美展を鑑賞します。

10月19日(土) 16:00～18:00

会場 西条酒蔵通り、東広島市立美術館

ガイド 学生ガイドてくてく

定員 20名(要申込、先着順)

参加費(観覧料)

締切 10月9日(水)※定員になり次第終了



参考画像

7 備後神楽公演

無料開館日に西条中央公園で備後神楽を公演します。

また日本刀の美展に関連して剣を使った舞を披露します。

11月3日(日・祝) 10:30～11:30

出演 綾目神楽保存会、豊栄神楽団ほか

演目 猿田彦の舞、剣舞

会場 西条中央公園(参加無料、申込不要)



参考画像

東広島市立美術館 広報用画像申込書

■FAX 082-430-7118 ■E-mail 2636026@izumi-techno.jp (東広島市立美術館 指定管理者(株)イズミテクノ)

申し込みフォーム			
貴媒体名			
貴社名/部署			
ご担当者名		E-mail	
ご住所	〒		
ご連絡先	TEL	FAX	
放送日	年 月 日	掲載号発売日	年 月 日
放送/掲載内容			
画像データの必要期限	年 月 日まで		

※上欄にご記入いただいた個人情報は、広報用画像貸出の目的のみに使用し、それ以外の用途には使用いたしません。

広報用画像一覧掲載ご希望の画像 (□にチェックをいれてください)					
① <input type="checkbox"/>		④ <input type="checkbox"/>	 刀 銘 住東叡山忍岡辺 長曾祢興里作 延宝二年六月吉祥日 江戸時代前期 刀剣博物館	⑦ <input type="checkbox"/>	 冠に琵琶 銘 其阿弥正比作 江戸時代 個人蔵
	広島県重要文化財 刀 銘 藝州大山住宗重作 永禄十一年八月吉日 個人蔵		⑤ <input type="checkbox"/>	 短刀 銘 安藝国三上貞直彫同作 平成二十六年三月吉祥日 個人蔵	⑧ <input type="checkbox"/>
② <input type="checkbox"/>	 御糸巻太刀拵 水野家伝来 個人蔵	⑥ <input type="checkbox"/>	 俱利伽羅龍図三所物 拵 十代後藤廉乗 江戸時代前期 個人蔵	⑨ <input type="checkbox"/>	コレクション展第Ⅲ期  ゼロ・ヒガシダ《阿字鶴》2021 (仁和寺会場)

<画像使用に際しての注意>

- ・本展覧会広報目的での使用に限ります。使用可能期間は本展覧会期終了までとなります。使用後はデータの破棄をお願いいたします。ただし、本展のレビュー記事についてはこの限りではありません。
- ・画像の二次使用はご遠慮ください。
- ・展覧会名、会期・会場名のほか、画像の使用時には下記の画像クレジットを必ずご掲載ください。
- ・作品画像は全図でご使用ください。トリミングや文字を重ねるなど画像の加工・改変はご遠慮ください。
- ・概要など確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で本展覧会広報事務局（申請先と同じ）までお送りいただけますようお願いいたします。
- ・掲載及び放送後は、お手数ですが、掲載誌・同録 DVD を広報事務局へ1部ご送付願います。